みやぎアクセスマップ

凡例

- 自動車専用道路
- 一般道
- 新幹線
- JR線
- 鉄道
- BRT（バス高速輸送システム）運行

JR（経路における列車の乗車時間の最速あくまで目安の時間となります。）

東京ー仙台（東北新幹線）	約1時間30分
新函館北斗ー仙台（北海道新幹線／東北新幹線）	約2時間30分
新青森ー仙台（東北新幹線）	約1時間30分
盛岡ー仙台（東北新幹線）	約39分
秋田ー仙台（秋田新幹線／東北新幹線）	約2時間10分
山形ー仙台（仙山線）	約1時間5分
福島ー仙台（東北新幹線）	約20分

飛行機（所要時間は最短のものです。）

札幌（新千歳）ー仙台（ANA／JAL／IBX／ADO／APJ）	1時間10分
成田ー仙台（ANA）	1時間
名古屋（中部）ー仙台（ANA／IBX／APJ）	1時間5分
大阪（伊丹）ー仙台（ANA／JAL／IBX）	1時間10分
大阪（関西）ー仙台（APJ）	1時間20分
神戸ー仙台（SKY）	1時間20分
広島ー仙台（IBX／ANA）	1時間20分
出雲ー仙台（FDA／JAL）	1時間25分
福岡ー仙台（IBX／ANA／JAL）	1時間40分
沖縄（那覇）ー仙台（ANA／APJ）	2時間25分

※令和3年3月現在の情報です。更新される場合がありますので、事前にご確認ください。

復興の最前線・宮城にぜひお越しください！

みやぎ・復興の歩み 10

NOW IS.〜「いま」を見つめて〜

2011.3.11〜2021.3.11

あなたの応援を力に。今までも。これからも。

宮城県
Miyagi Prefectural Government

発行：令和3年3月

宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570
仙台市青葉区本町三丁目8番1号

ＴＥＬ 022-211-2408　ＦＡＸ 022-211-2493
Email fukusui@pref.miyagi.lg.jp
ＵＲＬ https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fukusui/

みやぎ・復興の歩み 10

NOW IS.〜「いま」を見つめて〜

2011.3.11〜2021.3.11

この冊子は、東日本大震災からこれまでの宮城の復興の様子と震災復興情報発信プロジェクトNOW IS.で展開した記事をまとめたものです。

Contents

知事あいさつ 02
東日本大震災の概況 03
宮城県震災復興計画／県内市町震災復興計画 05
復興の進捗状況 06
地域の復興状況（気仙沼・本吉エリア） 13
地域の復興状況（石巻エリア） 15
地域の復興状況（仙台沿岸エリア） 17
地域の復興状況（内陸エリア） 19
みやぎの復興の歩み 2011.3〜2021.3 21
宮城県への支援状況／被災者支援情報 24
復興の主な取組例 25
情報発信の取組 29
震災の記憶の風化防止・伝承施設 35

知事あいさつ

東日本大震災から10年が経過しました。この間、国内外の皆さまから賜りました多大なるご支援、ご協力に改めて感謝申し上げます。

平成23年10月に策定した「宮城県震災復興計画」の最終年度に当たる今年度は、復興の総仕上げに向けて全力を尽くすとともに、震災の記憶の風化防止と伝承のための取組に一層力を入れてまいりました。

このような中、「南三陸町震災復興祈念公園」の全体開園や「山元町震災遺構中浜小学校」の一般公開の開始、さらには、「石巻南浜津波復興祈念公園」「みやぎ東日本大震災津波伝承館」の整備など、県内各地に震災遺構・伝承施設が完成し、防災教育や震災の記憶を伝え続けるための取組が進められています。

一方で、心のケアやコミュニティの再生、原発事故で汚染された廃棄物の処理など、今後も中長期的に継続して取り組むべき課題も残っております。また、今年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行による外出自粛や休業要請等に伴う消費の低迷、観光客の減少、大型イベントの相次ぐ中止決定などにより、復興途上にある被災地の産業やなりわいは、大きな影響を受けました。今後は、アフターコロナにおける時代の変化を捉え、新たな地方創生の取組を推進してまいりたいと考えております。

令和3年度は、これまでの「創造的な復興」の理念を引き継ぐ「新・宮城の将来ビジョン」がスタートします。県民一人ひとりが輝く、元気な宮城を皆様とともに築き上げ、震災を乗り越えていく宮城の復興の姿を広く発信するとともに、これまでのご支援に対する感謝を伝えたいと考えております。

「みやぎ・復興の歩み10」は、東日本大震災の発災から復興に向けた10年間の各地の取組とその経過、現在の復興状況等をまとめたものです。皆様からの応援を力に、今までも、これからも、復興に向けて一歩ずつ着実に歩みを進めていく宮城の姿をご覧ください。

宮城県知事
村井嘉浩

南三陸町震災復興祈念公園（提供：エスエス東京支店）

東日本大震災の概況

平成23年3月11日（金）午後2時46分、東日本大震災が発生しました。東日本を中心に大きな揺れが約3分間続き、電気、ガス、道路などインフラが大きな被害を受けました。地震で発生した巨大津波により、県内では1万人を超える死者・行方不明者が生じました。沿岸地域では、従来一定の津波対策を行ってきましたが、今回の巨大津波を防ぐことはできず、広範囲にわたり壊滅的な被害を受け、最大32万人を超える被災者が避難所での生活を余儀なくされました。また、東京電力福島第一原子力発電所が津波で被災し、宮城県においても、放射能測定や各種検査などの対応に追われました。

発生日時	平成23年3月11日（金）午後2時46分
発生場所	三陸沖（北緯38.1度、東経142.5度）※牡鹿半島の東約130km付近
震源の深さ	24km
最大震度	震度7（栗原市）
規模	マグニチュード9.0

□被害状況

(1)人的被害（R2/12末現在）

死者	10,567 人
行方不明者	1,217 人

死者のうち929人が関連死
全国の被害者総数の約5割に相当

(2)住家被害（R2/12末現在）

全壊	83,005 棟
半壊	155,130 棟

全国の被害総数の約６割に相当

(3)避難の状況

平成23年12月30日県内の全避難所が閉鎖

ピーク時

避難所数（35市町村）	1,323 施設（H23/3/15時点）
避難者数	320,885 人（H23/3/14時点）

	H24年4月	令和2年12月
プレハブ仮設住宅入居者	53,269 人	0 人
民間賃貸借上住宅入居者	67,753 人	13 人
県外避難者数	9,206 人	98 人※

※R3/1/11現在

(4)ライフライン関係被害

平成23年12月11日
県内のライフラインが全て復旧（津波で流出した地域を除く）

ピーク時

停電	1,545,494 戸
給水支障	35 市町村
ガス供給支障	13 市町

(5)浸水面積

浸水面積	327 ㎢

青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の６県合計の浸水面積561㎢の約６割、東京都23区の面積の半分以上に相当

(6)地盤沈下

海抜0m 以下の面積	56 ㎢

震災後増加割合3.4倍

(7)被害額の概要（R2/9末現在）

交通関係	103億円	鉄道、バス、離島航路 ※東日本旅客鉄道分を含みません。
ライフライン施設	2,394億円	電気、水道、都市ガス、通信・放送施設
保健医療・福祉関係施設	507億円	医療機関、社会福祉施設など
建築物（住宅関係）	5兆1,000億円	
民間施設など	9,906億円	工業、商業、自動車・船舶など
農林水産関係	1兆2,952億円	農業、畜産業、林業、水産業など
公共土木・交通基盤施設	1兆1,181億円	道路、河川、海岸、港湾、下水道など
文教施設	2,097億円	学校、社会教育施設、文化財施設など
廃棄物処理・し尿処理施設	54億円	
その他の公共施設など	774億円	観光施設、消防・警察関係施設、庁舎など
計	9兆968億円	※端数処理の関係上、合計が一致しない場合があります。

石巻市
提供：石巻市

女川町
提供：女川町

気仙沼市
提供：気仙沼市

仙台市
提供：仙台市

亘理町
提供：亘理町

多賀城市
提供：多賀城市

七ヶ浜町
提供：七ヶ浜町

宮城県震災復興計画

宮城県は、平成23年10月に今後10年間における復興の道筋を示す「宮城県震災復興計画」を策定しました。

詳しくは▶ 宮城県 復興の進捗状況 検索

復興を達成するまでの期間をおおむね10年間とし、令和2年度を復興の目標に定め、その計画期間を「復旧期」、「再生期」、「発展期」の３期に区分します。平成30年度からの「発展期」は、引き続き復旧・復興を最優先で進めるとともに、震災を乗り越え、更なる発展を遂げられるよう、人口減少、少子高齢化、環境保全、自然との共生、安全・安心な地域社会づくりなど、現代社会を取り巻く諸課題を解決する先進的な地域づくりに取り組んでまいります。

計画期間：10年間（目標：令和2年度）

基本理念

1 災害に強く安心して暮らせるまちづくり
2 県民一人ひとりが復興の主体・総力を結集した復興
3「復旧」にとどまらない抜本的な「再構築」
4 現代社会の課題を解決する先進的な地域づくり
5 壊滅的な被害からの復興モデルの構築

県の長期総合計画である「宮城の将来ビジョン」(平成19年度～令和2年度)と「宮城県震災復興計画」(平成23年度～令和2年度)、「宮城県地方創生総合戦略」(平成27年度～令和2年度)を着実に実施し、進行管理を行うため、平成30年3月に「宮城の将来ビジョン・震災復興・地方創生実施計画(発展期)」を策定しました。

復興のポイント

❶災害に強いまちづくり宮城モデルの構築
❷水産県みやぎの復興
❸先進的な農林業の構築
❹ものづくり産業の早期復興による「富県宮城の実現」
❺多様な魅力を持つみやぎの観光の再生
❻地域を包括する保健・医療・福祉の再構築
❼再生可能なエネルギーを活用したエコタウンの形成
❽災害に強い県土・国土づくりの推進
❾未来を担う人材の育成
❿復興を支える財源・制度・連携体制の構築

県内市町震災復興計画

県内21市町においても、地域の実情に応じて震災復興計画を策定しました。

■沿岸部市町

自治体名	震災復興計画	策定時期
仙　台　市	仙台市震災復興計画	平成23年11月（平成27年度で計画期間終了）
石　巻　市	石巻市震災復興基本計画	平成23年12月（令和2年度で計画期間終了）
塩　竈　市	塩竈市震災復興計画	平成23年12月（令和2年度で計画期間終了）
気仙沼市	気仙沼市震災復興計画	平成23年10月（令和2年度で計画期間終了）
名　取　市	名取市震災復興計画	平成23年10月（令和元年度で計画期間終了）
多賀城市	多賀城市震災復興計画	平成23年12月（令和2年度で計画期間終了）
岩　沼　市	岩沼市震災復興計画マスタープラン	平成23年　9月（令和2年度で計画期間終了）
東松島市	東松島市復興まちづくり計画	平成23年12月（令和2年度で計画期間終了）
亘　理　町	亘理町震災復興計画	平成23年12月（令和2年度で計画期間終了）
山　元　町	山元町震災復興計画	平成23年12月（平成30年度で計画期間終了）
松　島　町	松島町震災復興計画	平成23年12月（平成27年度で計画期間終了）
七ヶ浜町	七ヶ浜町震災復興計画	平成23年11月（令和2年度で計画期間終了）
利　府　町	利府町震災復興計画	平成23年12月（令和2年度で計画期間終了）
女　川　町	女川町復興計画	平成23年 9月（平成30年度で計画期間終了）
南三陸町	南三陸町震災復興計画	平成23年12月（令和2年度で計画期間終了）

■内陸部市町

自治体名	震災復興計画	策定時期
白　石　市	白石市東日本大震災復興計画	平成23年 9月（平成29年度で計画期間終了）
角　田　市	角田市震災復旧・復興基本計画	平成23年　8月（平成27年度で計画期間終了）
登　米　市	登米市震災復興計画	平成23年12月（平成27年度で計画期間終了）
栗　原　市	栗原市震災復興ビジョン	平成23年12月
大　崎　市	大崎市震災復興計画	平成23年10月（平成29年度で計画期間終了）
涌　谷　町	復興まちづくりマスタープラン	平成24年　3月（令和2年度で計画期間終了）

詳しくは▶ https://www.pref.miyagi.jp/site/hukkousien/keikaku.html 検索

復興の進捗状況

主なインフラの復旧・復興状況

■コンテナ貨物取扱量（仙台塩釜港（仙台港区））

R2/1～R2/12のコンテナ貨物取扱量　：270,000TEU※速報値
H22/1～H22/12のコンテナ貨物取扱量：216,345TEU

※TEU：20フィートコンテナ1個分相当を示す単位

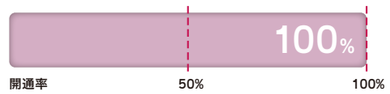
■仙台空港利用者数

■国際線　H31/1～R1/12利用者数　：393,043人
H22/1～H22/12利用者数：271,932人

■国内線　H31/1～R1/12利用者数　：3,462,344人
H22/1～H22/12利用者数：2,554,345人

■三陸沿岸道路（県内区域）

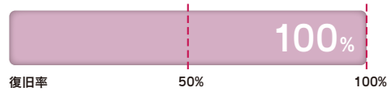
開通済延長：126.8km（R3/3/6現在）
計画延長　：126.8km



■鉄 道（県内在来線）

運行再開延長　：約456.0km（H28/12/10現在）
※BRT（バス高速輸送システム）による復旧を含む。

JR、空港アクセス鉄道等県内の鉄道延長　：約456.0km

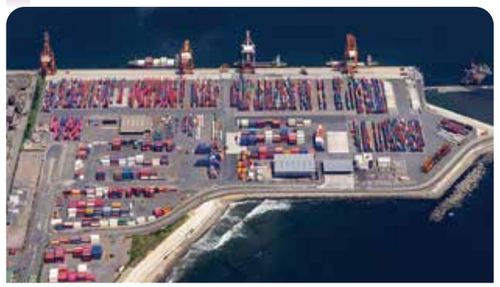


PeachがLCC初となる「仙台ー那覇線」を開設

松島大橋の新橋開通（松島町）

提供：松島町

仙台塩釜港高砂コンテナターミナル



三陸沿岸道路　気仙沼港IC～唐桑半島IC　開通

宮城県では、復興の進捗状況を県のホームページで発信しています。 宮城県 復興の進捗状況 検索

復興の進捗状況　環境・生活・衛生・廃棄物関連

被災者の生活再建を進め、安心して暮らすことのできる良好な生活環境を確保するとともに、環境保全など現代社会を取り巻く諸課題に対応した社会の形成を目指します。

■防災集団移転促進事業

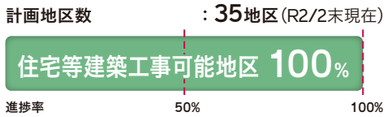
造成工事着手等地区　：195地区（H27/1末現在）
住宅等建築工事可能地区：195地区（H31/1末現在）

計画地区数　：195地区（H31/1末現在）

■土地区画整理事業

工事着工　：35地区（R1/7末現在）
住宅等建築工事可能地区：35地区（R2/12末現在）

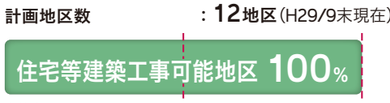
計画地区数　：35地区（R2/2末現在）



■津波復興拠点整備事業

工事着工　：12地区（H28/6末現在）
住宅等建築工事可能地区：12地区（H29/9末現在）

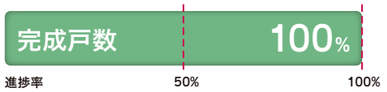
計画地区数　：12地区（H29/9末現在）



■災害公営住宅（事業着手戸数）

事業着手戸数　：15,823戸（H31/3末現在）
完成戸数　：15,823戸（H31/3末現在）

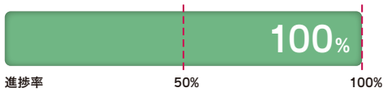
計画戸数　：15,823戸（H31/3末現在）



■災害廃棄物（処理・処分量）

処理・処分量　：約1,160万トン（H26/3末現在）

沿岸15市町の災害廃棄物の推計量：約1,160万トン（H26/3末現在）



防災拠点施設「さんみらい多賀城イベントプラザ（STEP）」

提供：多賀城市

宮城交通(株)及び富谷市と「燃料電池バスの導入に関する協定」を締結

代ヶ崎浜B地区復興土地区画整理事業（七ヶ浜町）

提供：七ヶ浜町

南気仙沼地区土地区画整理事業 竣工式（気仙沼市）

提供：気仙沼市

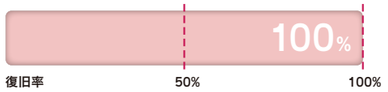
宮城県では、復興の進捗状況を県のホームページで発信しています。　宮城県 復興の進捗状況　検索

復興の進捗状況　保健・医療・福祉関連

被災者の健康を守ることを最優先で考え、地域特性や再建後の地域社会の姿を想定し、地域における保健・医療・福祉の提供体制を回復・充実させます。

■医療施設（病院・有床診療所）

再開した施設数　：115施設（H30/9/1現在）
被災施設数　：115施設　（参考）震災前施設総数：336施設

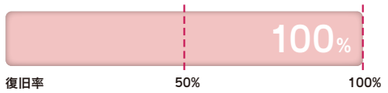


■障害者福祉施設

再開した施設数　：137施設（R3/1/31現在）
被災施設数　：138施設　（参考）震災前施設総数：670施設

■高齢者福祉施設（入所施設）

再開した施設数　：198施設（H30/2/1現在）
被災施設数　：198施設　（参考）震災前施設総数：463施設



■保育所（へき地保育所含む）

再開した施設数　：133施設（R3/1/1現在）
被災施設数　：135施設　（参考）震災前施設総数：374施設

〈 被害者の健康支援の取組 〉
サポートセンター
災害公営住宅などの見守りや生活・健康相談などを行う「サポートセンター」などの拠点を沿岸9市町27箇所に開設。（R2/4/30現在）

〈 地域包括ケアを推進する取組 〉
「通いの場（かよいのば）」の普及
高齢者ができる限り自分らしい暮らしを続けられるよう、介護予防事業の一つとして「通いの場づくり」が進められている。

〈 県民の心のケアの取組 〉
みやぎ心のケアセンター
心のケア拠点としての「みやぎ心のケアセンター」を設置し、被災者を対象とした訪問支援や相談会などの支援体制を整備。

〈 障害者支援の取組 〉
宮城県聴覚障害者情報センター（愛称：みみサポみやぎ）
被災した聴覚障害者の生活再建に向けた、相談支援や情報発信等を実施。

地域ぐるみの体操教室

障害者支援施設「宮城県船形の郷」

聴覚障害者やその家族に手話通訳や要約筆記を交えて情報提供（みみサポサロン）

閖上児童センターの再開（名取市）

提供：名取市

宮城県では、復興の進捗状況を県のホームページで発信しています。　宮城県 復興の進捗状況　検索

復興の進捗状況　経済・商工・観光・雇用関連

ものづくり産業の早期復興と、商業や観光の再生と賑わいづくり、県民生活を支える雇用の創出を最優先課題として、経済基盤を再構築します。

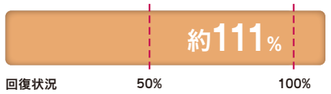
■被災商工業者の営業状況

営業継続会員数　：　9,731会員（R2/3末現在）

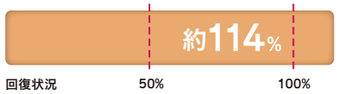
県内33商工会6商工会議所の被災会員数　：　11,423会員（R2/3末現在）

■観光客入込数

■全県　R1　：6,796万人
H22：6,129万人



■石巻・気仙沼圏域　R1　：921万人
H22：806万人



むすび丸「羽織袴バージョン」デビュー

「宮城県 松島離宮」オープン

気仙沼市内湾地区商業施設「ないわん」グランドオープン

宮城オルレ「登米コース」オープン

再建された神明崎浮見堂（気仙沼市）

豊田合成東日本（株）の新工場建設に関する協定締結式の様子

宮城県では、復興の進捗状況を県のホームページで発信しています。　宮城県 復興の進捗状況　検索

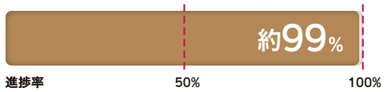
復興の進捗状況　公共土木施設災害復旧関連

「次世代に豊かさを引き継ぐことのできる持続可能なみやぎの県土づくり」の理念のもと、県民の命と生活を守り、震災を乗り越え、更なる発展につなげる県土づくりを目指して取り組みます。

■道路・橋梁施設（復旧工事）

完成箇所数　：1,517箇所（R2/12末現在）

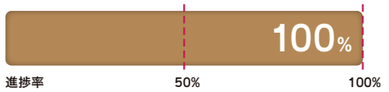
事業箇所数　：1,534箇所　道路 1,411箇所　橋梁 123箇所　（R2/12末現在）



■砂防・地滑・急傾斜施設（復旧工事）

完成箇所数：8箇所（H26/3末現在）

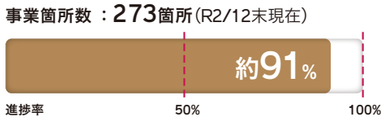
事業箇所数：8箇所（H26/3末現在）



■河川施設（復旧工事）

完成箇所数　：248箇所（R2/12末現在）

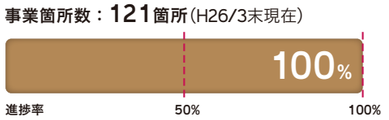
事業箇所数　：273箇所（R2/12末現在）



■下水道施設（復旧工事）

完成箇所数：121箇所（H26/3末現在）

事業箇所数：121箇所（H26/3末現在）



■海岸保全施設（復旧工事）

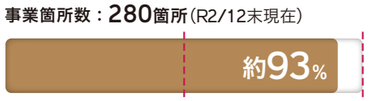
完成箇所数　：60箇所（R2/12末現在）

事業箇所数　：73箇所（R2/12末現在）

■港湾施設（復旧工事）

完成箇所数：259箇所（R2/12末現在）

事業箇所数：280箇所（R2/12末現在）



国道398号　長清水地区　完成

長石地先海岸　完成

二野倉第二排水ポンプ場の完成（岩沼市）

提供：岩沼市

水門・陸閘自動閉鎖システム運用開始

宮城県では、復興の進捗状況を県のホームページで発信しています。　宮城県 復興の進捗状況　検索

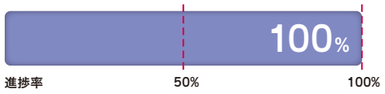
復興の進捗状況　農業・林業・水産業関連

沿岸部全域を中心に甚大な被害を受けたことから、諸施策の抜本的見直しを含めた大胆な取組等により、農林水産業については、
地域経済を牽引する新たな成長産業へとステップアップを図るとともに、宮城県を我が国の食料供給基地として再生します。

■治山施設（山地・海岸）

完成箇所数：19箇所（R1/12末完了）

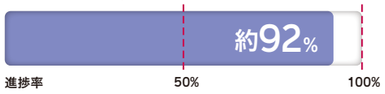
被災箇所数：19箇所



■漁 港（復旧工事）

完成箇所数：1,149箇所（R3/1末現在）

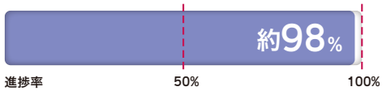
被災箇所数：1,251箇所



■海岸防災林

復旧完了面積：約735ha（R2/12末現在）

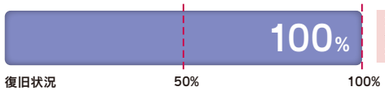
復旧対象面積：　753ha



■漁 船

稼働隻数　　：約8,800隻（H30/1末現在）※

震災前の稼働漁船隻数：約9,000隻（H23/3/11）

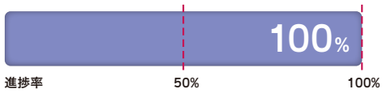


※復旧を希望する全ての漁船の復旧が完了

■林道施設

完成箇所数：62箇所（H29/3完了）

被災箇所数：62箇所

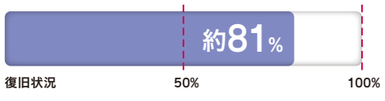


■主要魚市場の水揚状況

主要魚市場：塩釜、石巻、女川、南三陸、気仙沼

R1の水揚金額　：約490億円（約23万2千トン）（R2/1～R2/12）

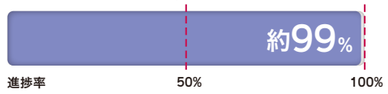
H22の水揚金額：約602億円（約32万トン）（H22/1～H22/12）



■農 地（除塩含む）

完成面積　　：約12,998ha（R2/12末現在）

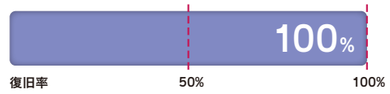
復旧対象面積：約13,000ha



■園 芸（園芸用ガラス室・ハウス復旧面積）

復旧面積　　：約178ha（H30/11末現在）

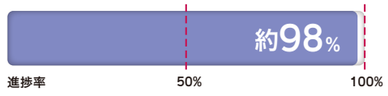
復旧対象面積：約178ha



■農業用施設（排水機場）

完成箇所数　　：46箇所（R2/12末現在）

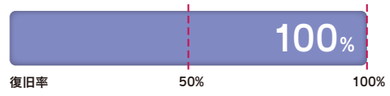
復旧対象箇所数：47箇所



■畜舎・畜産関連施設（堆肥センター等）

復旧施設数　　：186施設（H31/3末現在）

復旧対象施設数：186施設



みやぎ水産の日まつり（水産加工品PR販売会）

海岸防災林の復旧

**山元町で復興した
いちご生産施設における研修生の受け入れ**

**農地の整備が完了し、
営農を再開した石巻市大川地区**

宮城県では、復興の進捗状況を県のホームページで発信しています。　宮城県 復興の進捗状況　検索

復興の進捗状況　教育・防災・安全・安心関連

教育の分野では、学校で学ぶすべての子どもたちが、夢と志をもって、安心して学べる教育環境を確保します。
防災・安全・安心の分野では、県民生活の安全・安心を守る社会基盤である防災機能や治安体制の回復、充実・強化を図ります。

■県立学校施設（復旧工事）

復旧済施設数：91校　高等学校　73/73校　特別支援学校18/18校（H30/8末現在）

被災施設数：91校

■私立学校施設（復旧工事）

復旧済施設数：160施設　幼稚園　93/94園　小中高　29/29校　専修・各種　38/38校　（R2/9末現在）

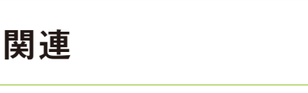
被災施設数：161施設（H23/3/11）

今後の復旧見込み R3以降 1園

■県立社会教育施設・県立社会体育施設（復旧工事）

復旧済施設数：16施設　社会教育施設11/11施設　社会体育施設5/5施設　（R3/1末現在）

被災施設数：16施設（H23/3/11）



※教育活動については，全ての学校で再開済み（仮設校舎等を含む）

女川町立女川小学校・女川中学校　完成

提供：女川町

松島自然の家　完成

宮城県では、復興の進捗状況を県のホームページで発信しています。　宮城県 復興の進捗状況　検索

気仙沼・本吉エリア

気仙沼市 南三陸町

気仙沼市鹿折地区
提供：アジア航測（株）

気仙沼・本吉エリアは、宮城県の北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町の1市1町です。

気仙沼市では、令和3年3月に「気仙沼市復興祈念公園」が開園する予定です。被災地域と気仙沼湾を見渡すことができる「陣山」に整備されたこの公園には、復興祈念のシンボル・祈りの帆ーセイルー等が配置され、人々が集い、祈る場所となっています。

南三陸町では、令和2年10月に「南三陸町震災復興祈念公園」が全体開園し、公園と「南三陸さんさん商店街」を繋ぐ「中橋」も開通しました。「追悼・継承・感謝　そして未来を想像する協働の場」をテーマとしてデザインされたこの公園は、南三陸町の復興のシンボルとなり、県内外から沢山の人が訪れています。

□気仙沼・本吉エリア

	地域合計	県内合計
死者	1,838人	10,567人
行方不明者	425人	1,217人
全壊	11,626棟	83,005棟
半壊	2,749棟	155,130棟

（令和2年12月31日現在）

□応急仮設住宅入居者数

	平成24年4月	令和2年12月
プレハブ住宅	14,085人	0人
民間賃貸借上住宅	4,944人	0人
計	19,029人	0人

（令和2年12月31日現在）

□災害公営住宅整備状況

	平成31年3月末
計画戸数	2,825戸
完了戸数	2,825戸

気仙沼市復興祈念公園

南三陸町震災復興祈念公園とさんさん商店街を繋ぐ「中橋」
（提供：南三陸町観光協会）

気仙沼・本吉エリアの定点観測

気仙沼市鹿折（ししおり）地区

津波により多くの建物が流失しましたが、災害公営住宅が建設されるなど、地域ににぎわいが戻りつつあります。

被災直後

被災から10年後

提供：気仙沼市

気仙沼市階上（はしかみ）地区

「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」となった気仙沼向洋高校の旧校舎前グランド跡地を利用し、令和2年9月にパークゴルフ場がオープンしました。

被災直後

被災から10年後

提供：気仙沼市

南三陸町志津川地区

中心市街地の広範囲に津波が押し寄せ、大きな被害を受けました。令和2年10月に「南三陸町震災復興祈念公園」の整備が完了するなど、日々まちの姿が変わり続けています。

被災直後

被災から10年後

提供：南三陸町

南三陸町歌津伊里前地区

平成29年4月に復興商店街「南三陸ハマーレ歌津」が本設店舗としてオープンし、食事や買い物を楽しむ人々でにぎわっています。

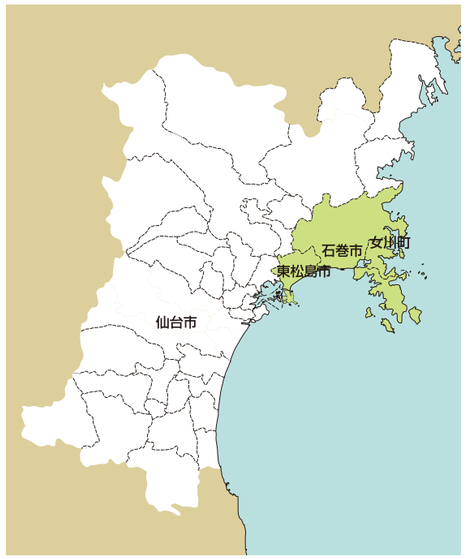
被災直後

被災から10年後

石巻エリア

石巻市 女川町 東松島市

女川町女川地区
提供:アジア航測（株）



石巻エリアは，宮城県の東部に位置し、石巻市、女川町、東松島市の2市1町です。

石巻市南浜地区では、令和3年3月に「石巻南浜津波復興祈念公園」の整備が完了する予定です。公園内の「みやぎ東日本大震災津波伝承館」では、被災の状況や津波から命を守るための教訓等をパネルや映像を用いて伝えています。

女川町では、施設一体型小中一貫教育学校となる女川小・中学校が令和2年8月に完成し、落成式が行われました。「志をもって、未来を切り拓いていく子供」を目指し、9年間というスパンで連続的・系統的な教育を実践していきます。

東松島市では、震災で被災し野蒜地区に移転整備していた「奥松島運動公園」が10月にオープンしました。防災体験型宿泊施設「KIBOTCHA（キボッチャ）」に近く、スポーツ合宿等での活用も期待されています。

□石巻エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	5,300人	10,567人
行方不明者	698人	1,217人
全壊	28,487棟	83,005棟
半壊	18,956棟	155,130棟

（令和2年12月31日現在）

□応急仮設住宅入居者数

	平成24年4月	令和2年12月
プレハブ住宅	24,517人	0人
民間賃貸借上住宅	16,968人	0人
計	41,485人	0人

（令和2年12月31日現在）

□災害公営住宅整備状況

	平成31年3月末
計画戸数	6,416戸
完了戸数	6,416戸

石巻南浜津波復興祈念公園

奥松島運動公園
（提供:東松島市）

石巻エリアの定点観測

石巻市雄勝地区

国内唯一の硯の展示施設「雄勝硯伝統産業会館」の再建が完了し、「観光物産交流施設」と併せ、令和2年5月にオープンしました。

被災直後

被災から10年後

提供：石巻市

石巻市中瀬地区

令和2年9月に、石巻市中心部と湊地区を結ぶ「内海橋」が開通し、地元水産業や観光振興など、周辺地域の活性化への寄与が期待されています。

被災直後

被災から10年後

提供：石巻市

女川町女川浜地区

壊滅的な被害を受けた女川駅周辺は、多くの人々が訪れにぎわう空間となりました。この女川駅前商店街エリアは、重点「道の駅」に認定され、令和3年春、道の駅「おながわ」となります。

被災直後

被災から10年後

東松島市大曲浜地区

東松島市大曲浜地区周辺では、パークゴルフ場や緑地公園が整備され、県内外から訪れた多くの人々が運動を楽しんでいます。

被災直後

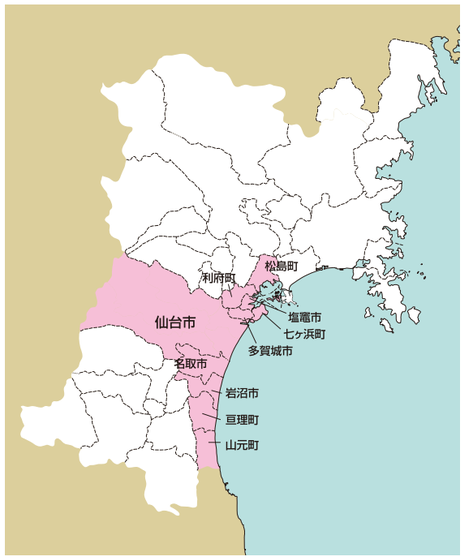
被災から10年後

提供：東松島市図書館

仙台沿岸エリア

仙台市 松島町 利府町 塩竈市 七ヶ浜町
多賀城市 名取市 岩沼市 亘理町 山元町

七ヶ浜町七ヶ浜地区
提供:アジア航測(株)



仙台沿岸エリアは、松島町以南の沿岸地域で、仙台市、松島町、利府町、塩竈市、七ヶ浜町、多賀城市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町の5市5町です。

名取市では、震災の津波により施設が全壊した名取市閖上の「名取市サイクルスポーツセンター」が再建され、令和2年10月にオープンしました。天然温泉の浴場を備えた宿泊施設が併設しており、運動や日帰り温泉を楽しむ家族連れで賑わっています。

山元町では、令和2年9月に、震災の風化防止と防災意識の向上を目的として、「山元町震災遺構中浜小学校」の一般公開を開始しました。震災時に大津波から90人の命を守った「山元町立中浜小学校」は、教訓の伝承や防災教育の場、そして山元町の復興のシンボルとして、新たな役割を担っていくこととなります。

□仙台沿岸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	3,396人	10,567人
行方不明者	89人	1,217人
全壊	41,546棟	83,005棟
半壊	124,923棟	155,130棟

（令和2年12月31日現在）

□応急仮設住宅入居者数

	平成24年4月	令和2年12月
プレハブ住宅	14,382人	0人
民間賃貸借上住宅	37,861人	6人
計	52,243人	6人

（令和2年12月31日現在）

□災害公営住宅整備状況

	平成31年3月末
計画戸数	6,222戸
完了戸数	6,222戸

名取市サイクルスポーツセンター

山元町震災遺構中浜小学校
（提供:山元町）

仙台沿岸エリアの定点観測

仙台市若林区荒浜地区

震災遺構仙台市立荒浜小学校の南側に市内最大の「避難の丘」が整備され、災害時には約5,300人の避難が可能となりました。

被災直後

被災から10年後

出典：河北新報震災アーカイブ

名取市閖上地区

令和元年5月に「まちびらき」が行われ、震災メモリアル公園は震災の記憶と教訓を未来に語り継ぎ、人々が集い憩える場所となっています。

被災直後

被災から10年後

提供：「閖上の記憶」

亘理町荒浜地区

「わたり温泉 鳥の海」で知られる亘理町荒浜地区には、市場や商店街のほか「鳥の海公園運動場」が新たに整備され、子どもから大人まで幅広い世代が様々なスポーツで汗を流しています。

被災直後

被災から10年後

提供：亘理町

山元町磯地区

津波により被災した防潮堤や物揚場などの漁港施設の復旧が完了し、特産のホッキ漁が再開するなど、震災前の活気を取り戻しつつあります。

被災直後

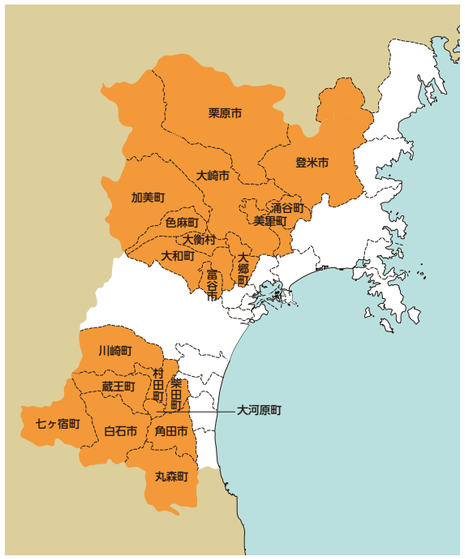
被災から10年後

提供：山元町

内陸エリア

白石市 角田市 登米市 栗原市 大崎市 富谷市 蔵王町 七ヶ宿町 大河原町
村田町 柴田町 川崎町 丸森町 大和町 大郷町 大衡村 色麻町 加美町 涌谷町 美里町

栗原市栗駒山



県内陸部の20市町村では、津波の被害こそなかったものの、栗原市で最大震度7を記録し、死者・行方不明者の人的被害のほか、全半壊の住家が約10,000棟に及ぶ大きな被害を受けました。

大崎市では、震災で損壊した国指定史跡名勝「旧有備館および庭園」の復旧工事が平成28年3月に完了しました。旧有備館は、1677年頃に建てられたと言われており、現在までその姿を伝えています。震災により御改所（主屋）や附属屋等に被害がありましたが、できる限り元の材料を再利用して復旧しました。

自動車関連産業では、立地企業が東北地区での生産体制を強化したことにより、関連企業の工場進出が相次いだほか、高度電子機械関連産業についても関連企業の集積が進みました。あわせて、ものづくり産業の復興を担う人材の育成や、新たな産業で活躍できる人材を育成し、多様な雇用機会の創出に努めてきました。

国指定史跡名勝「旧有備館および庭園」

大和リサーチパーク

□内陸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	33人	10,567人
行方不明者	5人	1,217人
全壊	1,346棟	83,005棟
半壊	8,502棟	155,130棟

（令和2年12月31日現在）

□応急仮設住宅入居者数

	平成24年4月	令和2年12月
プレハブ住宅	285人	0人
民間賃貸借上住宅	7,980人	7人
計	8,265人	7人

（令和2年12月31日現在）

□災害公営住宅整備状況

	平成31年3月末
計画戸数	360戸
完了戸数	360戸

内陸エリアの定点観測

栗原市若柳地区

若柳・市道沢辺大岡線では、路面が波打つように大きく崩れましたが、復旧工事を行い、元通り通行できるようになりました。

被災直後

被災から10年後

提供：栗原市

登米市東和地区

東和総合運動公園は、野球場などの法面が崩落し、使用できない状況が続いていましたが、平成27年4月に復旧工事が完了しました。

被災直後

被災から10年後

提供：登米市

大崎市古川江合橋付近

激しい揺れで堤防が崩壊し、市道も無残に切り裂かれましたが、震災の翌年には元通り復旧しました。

被災直後

被災から10年後

提供：大崎市

白石市白石地区

白石市に所在する「古典芸能伝承の館　碧水園」の茶室も震災により大きな被害を受けましたが、元通り修繕されました。

被災直後

被災から10年後

提供：白石市

みやぎの復興の歩み 2011.3～2021.3

1

2

3

4

5

6

2011年（平成23年）		
3月	11日	東日本大震災発生「宮城県災害対策本部」設置/全市町村に災害救助法を適用
	14日	東日本大震災の県内被災者が最大に（約32万人）
	24日	東北自動車道の全面通行止解除
	30日	三陸自動車道が全面復旧
4月	7日	宮城県沖を震源とするM7.1の余震発生
	11日	「宮城県震災復興基本方針（素案）」公表
	13日	仙台空港で震災後初となる国内臨時便が就航 1
	14日	塩竈市魚市場で震災後初の水揚げ 2
	22日	「宮城県震災復興本部」設置
	27日	天皇皇后両陛下が被災地をご訪問（南三陸町・仙台市）
	28日	県内初の応急仮設住宅（プレハブ）入居開始（塩竈市）
	29日	「震災復興キックオフデー」を宣言 東北新幹線が全線復旧 3
5月	2日	「宮城県震災復興会議」開催
6月	20日	「東日本大震災復興基本法」成立
	25日	「東日本大震災復興構想会議」が「復興への提言」を決定
7月	25日	仙台空港で国内定期便が再開、国際臨時便も就航
8月	1日	自衛隊による復興支援活動終了
	10日	県内初の事業用仮設施設（しおがま・みなと復興市場）が完成
9月	12日	「東京電力福島第一原子力発電所事故対策みやぎ県民会議」設立
	25日	仙台空港ビル完全復旧及び国際定期便運航再開
10月	1日	仙台空港アクセス鉄道が全線で運行再開
	18日	「宮城県震災復興計画」策定
12月	1日	宮城県震災復興本部に「被災者生活支援実施本部」を設置 「みやぎ心のケアセンター」を開設
	9日	「復興庁設置法」成立
	11日	県内のライフラインが全て復旧（津波流出地域を除く）
	26日	応急仮設住宅（プレハブ）全戸完成（406団地22,095戸） 4
	30日	県内の全避難所が閉鎖
2012年（平成24年）		
2月	10日	国が「復興庁」設置。仙台市に宮城復興局、石巻市及び気仙沼市に支所を設置
3月	11日	東日本大震災から1年。県内各地で追悼式典などの開催
	19日	「東京電力福島第一原子力発電所事故被害対策実施計画」策定
	26日	「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画（復旧期）」策定 「宮城県災害対策本部」を廃止
4月	1日	全国初の県内公立学校への「防災主任」、拠点小学校への「防災担当主幹教諭」を配置
7月	18日	「宮城県災害公営住宅整備指針（ガイドライン）」策定
	20日	「新蛇田地区被災市街地復興土地区画整理事業」事業認可（事業認可第1号）（石巻市）
8月	5日	「玉浦西地区防災集団移転促進事業」起工（県内初）（岩沼市）
	20日	JR気仙沼線がバス高速輸送システム（BRT）による運行開始（気仙沼市・南三陸町・登米市） 5
10月	18日	「宮城県被災者復興支援会議」設置
2013年（平成25年）		
1月	29日	気仙沼ブロック（気仙沼処理区）小泉地区焼却施設稼働式（県受託処理による焼却炉計26基全て完成）
3月	11日	東日本大震災から2年
	25日	「復興まちづくり事業カルテ」発表
	26日	東日本大震災復興基金交付金（津波被災住宅再建支援分）を沿岸15市町に交付
4月	1日	県内初の災害公営住宅入居開始（仙台市、石巻市,山元町）「みやぎ鎮魂の日を定める条例」施行
	26日	宮城県災害廃棄物処理実行計画（最終版）公表
5月	24日	陸中海岸国立公園が三陸復興公園として指定
6月	20日	県内初の防災集団移転促進事業が竣工（仙台市）
8月	23日	東松島市野蒜に大規模太陽光発電所（メガソーラー）が完成
9月	1日	水産業復興特区を活用した新たな漁業がスタート（石巻市）
	3日	「いちご団地」が完成。生産者に引き渡される（亘理町） 6
11月	3日	「慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）」が再開（石巻市）
12月	17日	「農山漁村地域復興基盤総合整備事業」起工式（県内初の起工式）（岩沼市）

2014年（平成26年）		
1月	18日	災害廃棄物県内焼却処理の終了
2月	25日	災害廃棄物県外処理の終了
3月	11日	東日本大震災から3年（みやぎ鎮魂の日）
	12日	災害廃棄物処理の終了
	25日	「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画（再生期）」策定
4月	1日	「改正震災対策推進条例」施行
	24日	仙台空港の民営化について、国がその実施方針を決定
	30日	震災による県管理道路の通行止めが全て解除（石巻市・女川町）
7月	19日	「気仙沼 海の市・シャークミュージアム」がグランドオープン（気仙沼市）
9月	30日	災害廃棄物処理施設の解体撤去と用地の原状復旧並びに返地が終了
10月	4日	「わたり温泉鳥の海」が日帰り温泉を再開（亘理町）交流拠点施設「きずなぱーと“わたり”」がオープン（亘理町）
12月	6日	常磐自動車道のうち、未開通の相馬一山元ICと浪江南相馬ICが開通（山元町）
	14日	仙石線陸前大塚・陸前小野間のレール締結式を開催（東松島市）
2015年（平成27年）		
1月	8日	「宮城県震災遺構有識者会議報告書」提出
3月	1日	常磐自動車道が全線開通
	11日	東日本大震災から4年（みやぎ鎮魂の日）
	14日	国連防災会議とパブリック・フォーラム（関連イベント）が開催（仙台市）
	21日	JR石巻線が全線運行再開・「おながわ復興まちびらき2015春」が開催される（女川町） 7
5月	30日	JR仙石線全線運行再開・仙石東北ライン開業
6月	15日	東日本大震災関連の資料を取りまとめた「東日本大震災アーカイブ宮城」を公開
7月	19日	玉浦西地区まち開き（岩沼市）
9月	1日	石巻市水産物地方卸売市場石巻売場全面供用開始 8
10月	4日	三陸沿岸道路「石巻女川IC」「県道石巻女川インター線」開通（石巻市） 美田園北地区まちびらき（名取市）
11月	3日	石巻市新市街地5地区まちびらき（石巻市）
12月	6日	仙台市地下鉄東西線開通（仙台市）
	14日	「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」が開設（南三陸町）
	23日	「女川駅前商業エリア」が開業し、「おながわ復興まちびらき2015冬」が開催（女川町） 9
2016年（平成28年）		
3月	11日	東日本大震災から5年（みやぎ鎮魂の日）
	26日	仙石線「石巻あゆみ野駅」が開業（石巻市）
	27日	三陸沿岸道路「仙塩道路」4車線化及び多賀城ICが開通
	29日	スマート水素ステーションの整備（仙台市）と燃料電池自動車（FCV）の導入
4月	1日	多賀城高校災害科学科新設（多賀城市）/東北医科薬科大学の医学部新設（仙台市）
	16日	三陸沿岸道路「登米東和IC~三滝堂IC間」開通
6月	1日	南三陸町地方卸売市場落成式（南三陸町）
7月	1日	仙台空港民営化（国が管理する空港の民営化第1号） 10
9月	1日	石巻市立病院が開院（石巻市）
	24日	「あおい地区まちびらき」が開催され、青森ねぶたもまちの誕生祝う（東松島市）
10月	23日	「つばめの杜地区」と「新坂元駅周辺地区」でまちびらき（山元町）
	28日	宮城県ドクターヘリが運航開始（仙台市）
	30日	三陸沿岸道路「三滝堂IC~志津川IC間」が開通
12月	10日	JR常磐線の運休区間が再開（相馬-浜吉田間）
2017年（平成29年）		
1月	9日	被災した野蒜小と宮戸小が統合してできた宮野森小学校の新校舎が完成（東松島市）
3月	3日	「南三陸さんさん商店街」が本設移転し開業（南三陸町）
	11日	東日本大震災から6年（みやぎ鎮魂の日）
3月	19日	新門脇地区でまちびらき（石巻市）
	20日	三陸沿岸道路「志津川IC~南三陸海岸IC間」が開通（南三陸町）
	22日	東北初の商用水素ステーション運用開始（仙台市）
4月	23日	復興商店街「南三陸ハマーレ歌津」が本設店舗でオープン（南三陸町） 11
	30日	震災遺構仙台市立荒浜小学校が一般公開される（仙台市）
5月	30日	女川町魚市場の復旧整備が完了（女川町）
6月	30日	観光交流施設「いしのまき元気いちば」がオープン（石巻市）
7月	14日	菖蒲田地区の海岸堤防や復興道路の整備が完了。海水浴場もフルオープン（七ヶ浜町）
	15日	サンオーレそではま海水浴場が7年ぶりにオープン（南三陸町） 12
	22日	アートと音楽と食の新しい総合祭「リボーンアート・フェスティバル2017」が開催される（石巻市ほか）

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

8月	24日	石巻市立雄勝小・中学校の新校舎が完成（石巻市）
9月	3日	南三陸町役場新庁舎が開庁（南三陸町）
10月	1日	被災沿岸地域を駆ける「東北・みやぎ復興マラソン2017」が開催される（岩沼市・名取市・亘理町）
	15日	野蒜ケ丘地区で「まちびらきまつり」が開催される（東松島市）
	25日	塩竈市魚市場の復旧整備が完了（塩竈市）
	29日	新築移転した気仙沼市立病院が開院（気仙沼市）
		宮内地区で「まちびらき植樹祭」が開催される（多賀城市）
11月	5日	東松島市東日本大震災復興祈念公園が完成（東松島市）
12月	9日	三陸沿岸道路「南三陸海岸IC～歌津IC間」が開通（南三陸町）
2018年（平成30年）		
1月	8日	鳴瀬未来中学校の新校舎が完成（東松島市）
3月	11日	東日本大震災から7年（みやぎ鎮魂の日）
	24日	かさ上げ道路「玉浦希望ライン」が全線開通（岩沼市）
	25日	三陸沿岸道路「大谷海岸IC～気仙沼中央IC間」が開通（気仙沼市）
	31日	気仙沼図書館・気仙沼児童センターオープン（気仙沼市）
4月	1日	荒浜漁港フィッシャリーナリニューアルオープン（亘理町）
	7日	閖上小中一貫教育校が完成～開校式開催～（名取市）
	14日	亘理都市公園・鳥の海公園が完成～開園式開催～（亘理町）
	18日	女川町の災害公営住宅整備事業が完了～完了式典開催～（女川町）
5月	31日	石巻市防災センターが完成～開所式典開催～（石巻市）
7月	8日	仙台市海岸公園（井土地区）が再開（仙台市）
	12日	塩竈市津波防災センターオープン（塩竈市）
	21日	渡波海水浴場で震災後初となる海開き（石巻市）
8月	24日	気仙沼向洋高校の新校舎が完成～入校舎式典開催～（気仙沼市）
9月	8日	「石巻市かわまち交流センター」が完成（石巻市）
10月	1日	女川町新庁舎が完成～開庁式開催～（女川町）
	7日	宮城オルレ「気仙沼・唐桑コース」オープン（気仙沼市）
	8日	宮城オルレ「奥松島コース」オープン（東松島市）
	18日	志津川湾がラムサール条約湿地に登録（南三陸町）
11月	15日	観光集客施設「迎（ムカエル）」本格オープン（気仙沼市）
2019年（平成31年）		
2月	9日	山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」がオープン（山元町）
	16日	三陸沿岸道路「歌津IC～小泉海岸IC間」が開通（南三陸町、気仙沼市）
		三陸沿岸道路「本吉津谷IC～大谷海岸IC間」が開通（気仙沼市）
3月	10日	気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館がオープン（気仙沼市） 13
	11日	東日本大震災から8年（みやぎ鎮魂の日）
	20日	県内全ての災害公営住宅が完成
4月	7日	気仙沼大島大橋が完成　～開通式開催～ 14
	25日	「かわまちてらす閖上」がオープン（名取市）
2019年（令和元年）		
5月	10日	山元町新庁舎完成　～開庁記念式典開催～
	26日	名取市閖上地区まちびらき 15
6月	9日	みちのく潮風トレイル全線開通
7月	20日	小泉海水浴場が９年ぶりの海開き
8月	2日	震災遺構「仙台市荒浜地区住宅基礎」公開開始
11月	30日	東部復興道路開通（仙台市） 16
2020年（令和2年）		
2月	24日	三陸沿岸道路「気仙沼中央IC～気仙沼港IC」が開通（気仙沼市）
3月	11日	東日本大震災から9年（みやぎ鎮魂の日）
6月	12日	「宮城県水門・陸閘自動閉鎖システム」が運用開始
9月	10日	国道398号「内海橋」が開通（石巻市） 17
	26日	「山元町震災遺構中浜小学校」が一般公開される（山元町）
10月	3日	「名取市サイクルスポーツセンター」がグランドオープン（名取市） 18
	12日	「南三陸町震災復興祈念公園」全体開園（南三陸町）
	25日	PeachがLCC初となる「仙台ー那覇線」を開設
2021年（令和3年）		
3月	6日	三陸沿岸道路「気仙沼港IC～唐桑半島IC」が開通（気仙沼市）
	11日	「気仙沼市復興祈念公園」が開園（予定）
	11日	東日本大震災から10年（みやぎ鎮魂の日）
	28日	「石巻南浜津波復興祈念公園」「みやぎ東日本大震災津波伝承館」が開園・開館（予定）（石巻市）

宮城県への支援状況

国内外からの多大なる温かいご支援に支えられて、宮城は復興への歩みを進めています。
いただいたご支援に改めて感謝申し上げるとともに、ここではその一端をご紹介します。

●活動ボランティア延べ人数 …… **77万7,326人**（H23.3.12~R2.12.31）

●他都道府県などからの人的支援数 …… **宮城県/74人**（R3.1.1現在）
市町村/398人（R3.1.1現在）

●寄附金 県内の災害復旧および復興事業の財源のために活用させていただいております。
…… **13,732件 348億7,490万2千円**（R2.12.31現在）

●義援金 被災された方々に対する生活支援のために活用させていただいております。

・県の受付状況 …… **206,325件 272億8,787万円**（R3.1.31現在）
・政府および義援金受付団体からの配分状況 …… **1,896億9,827万円**（R3.1.31現在）

●東日本大震災みやぎこども育英募金 東日本大震災による震災孤児などのために活用させていただいております。
…… **19,830件120億9,920万円**（R3.1.31現在）

ほかにも物心両面で本当にたくさんの心温まるご支援をいただきました。
今なお被災地製品の購入やチャリティーイベント、県外避難者へのご支援など、
さまざまな形でご支援いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

義援金、寄附金の取扱いについて　詳しくは▶ https://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/kihu.html 検索

被災者支援情報

宮城県では、東日本大震災により被災された方々の生活支援や事業再建に向けたさまざまな情報を発信しています。
ぜひご活用ください。

●宮城県ホームページ

宮城県の東日本大震災に関する情報を随時更新し発信しています。主に、「震災・復興」のカテゴリーで関連情報を公開しています。

●みやぎ被災者生活支援ガイドブック

被災された方々への生活を中心とした支援に関する大まかな内容と問い合わせ先を県ホームページにて閲覧・ダウンロードできます。また、支援内容に追加・修正などがあった場合は、随時更新します。

被災者生活支援ガイドブック

●事業再建のためのガイドブック

中小企業施策活用ガイドブック

みやぎの農業施策ガイドブック

みやぎの森林・林業施策ガイドブック

みやぎの水産業施策ガイドブック

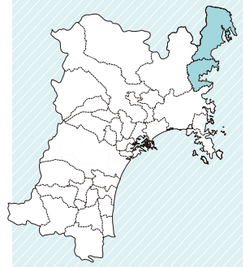
●放射能情報サイトみやぎ

宮城県内の放射線・放射能に関する情報を正確に分かりやすくお伝えしています。

復興の主な取組例

宮城県震災復興計画では、“「復旧」にとどまらない抜本的な「再構築」”を基本理念のひとつに掲げています。被災地では、まちを元通りに戻すのではなく、様々なアイディアを用いて将来を見据えた先進的なまちづくりが行われてきました。震災から10年の時を経て、活気にあふれ、生まれ変わったまちの復興の様子を紹介します。

気仙沼・本吉エリア



気仙沼市

大島の観光施設「野杜海（のどか）」

1.

気仙沼市

気仙沼大島大橋

南三陸町

南三陸さんさん商店街

2.

南三陸町

南三陸ワイナリー

1. 気仙沼大島大橋／野杜海（のどか）

東北最大の有人離島・気仙沼大島と本土を結ぶ希望の橋として、平成31年4月に完成した気仙沼大島大橋。鶴亀大橋の愛称で親しまれるこのアーチ橋は、気仙沼市の新たなシンボル（のどか）の一つとなりました。令和元年7月には、島内に観光施設「野杜海」がオープンしました。

2. さんさん商店街

南三陸町では、仮設で営業してきた商店街が、海抜約10mにかさ上げされた土地に再建され、平成29年3月に「南三陸さんさん商店街」としてオープンしました。令和2年には、町内にワイナリーがオープンし、地元食材とのマリアージュが楽しめます。

石巻エリア

石巻市・南三陸町・女川町

牡蠣

3.

石巻市

水産業復興特区の導入

県は、震災により甚大な被害を受けた県内の水産業を早期に復興させるための選択肢の一つとして、漁業法により漁業協同組合に優先的に免許される漁業権を、地元漁業者を主体とする法人に付与できる「水産業復興特区」を国へ提案しました。これを受け、平成23年12月に「東日本大震災復興特別区域法(復興特区法)」が制定され、平成25年4月に石巻市桃浦地区が日本初の水産業復興特区に認定されました。

いしのまき元気いちば

石巻市

4.

かわまち交流センター

女川町

シーパルピア女川（提供：女川町）

5.

東松島市

KIBOTCHA（提供：貴凛庁株式会社）

6.

3. ASC国際認証取得

平成28年には、南三陸町戸倉地区の牡蠣養殖場が国内初となる「ASC国際認証※」を取得しました。その後、石巻市の牡蠣や女川町の銀鮭も同認証を取得しており、未来の子どもたちに残せる養殖業を目指した持続可能な漁場作りが進められています。

※環境に負担をかけず地域社会に配慮して操業している養殖業に対する国際的な認証制度。

4. いしのまき元気いちば／かわまち交流センター

石巻の中心市街地に、平成29年6月にオープンした「いしのまき元気いちば」。石巻で水揚げされたばかりの新鮮な魚介類をはじめ、豊富な地元産の食材が揃うマーケットです。

5. シーパルピア女川

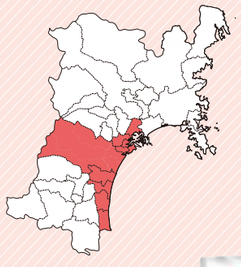
女川町では、女川駅から海へと続くレンガの遊歩道に沿って、女川グルメや豊富な土産、体験満喫のおもてなし拠点「シーパルピア女川」が平成27年12月に開業しました。平成30年度には、「女川駅前レンガみち周辺地区」が「都市景観大賞」の都市空間部門で大賞（国土交通大臣賞）を受賞しました。

6. KIBOTCHA

東松島市では、津波で被災した旧野蒜小学校の校舎が、防災を学ぶ室内テーマパーク「KIBOTCHA(キボッチャ)」として生まれ変わりました。子ども達が様々な体験を通して防災の防災や生き抜く知恵を学んでいます。

復興の主な取組例

仙台沿岸エリア



仙台市

7.
東部復興道路

宮城全域

8.

宮城全域

9.
DATE SEVENの7蔵元（提供：DATE SEVEN）

仙台市

10.
東北医科薬科大学 福室キャンパス

多賀城市

11.

宮城県多賀城高等学校
（提供：宮城県多賀城高等学校）

亘理町

いちご団地

14.

新品種「にこにこベリー」

名取市

12.
かわまちてらす閖上（提供：名取市）

名取市・岩沼市

13.
仙台空港

山元町

15.

やまもと夢いちごの郷（提供：山元町）

宮城全域

水素エネルギー利活用の推進

宮城県では、震災の経験を踏まえ、水素エネルギーの利活用拡大に向けた取組を着実に進めていくことで、環境負荷の低減や災害対応能力の強化に加え、産業振興においても効果が期待できることから、平成27年6月に「みやぎ水素エネルギー利活用推進ビジョン」を策定しました。二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化の抑制や環境負荷の低減を推進するとともに、燃料電池自動車（FCV）を災害時の非常用電源として活用できる体制の整備を進めることで、災害対応能力の強化を図っています。

公用車として導入したFCV

7.「東部復興道路」全線開通

仙台市では、被災した沿岸部に整備したかさ上げ道路「東部復興道路」が、令和元年11月に全線開通しました。海岸防潮堤や仙台東部道路などの多重防御で津波の威力を軽減します。

8. 新品種「だて正夢」デビュー

平成30年秋に本格デビューしたプレミアムブランド米「だて正夢」。仙台藩祖・伊達政宗公のようなカリスマ性で、“食卓の天下を取る”という願いを込めて名づけられました。もちもちした食感と強い甘みが特長です。

9. DATE SEVEN（伊達セブン）

異なる個性を持つ県内の7蔵が、それぞれの得意分野を互いに吸収し、技術を高め合うために結成した蔵の集団です。年に一度、7蔵で協力して作る特別な日本酒は、全国で心待ちにしているファンも多く、毎年完売するほどの人気です。

10. 37年ぶりの新医学部 開設

宮城県では、東北の医師不足・偏在の解消や幅広い総合診療能力を持つ医師の育成のため、医学部の新設を目指して国への働きかけなどを行ってきました。その結果、平成28年4月に、国内で37年ぶりの新医学部となる「東北医科薬科大学医学部」を開設することができました。

11. 多賀城高校「災害科学科」新設

平成28年4月、宮城県多賀城高等学校に、全国で2例目となる防災系専門学科「災害科学科」が新設されました。大震災の教訓を次世代に伝承するとともに、将来国内外で発生する災害から多くの命と暮らしを守るスペシャリストを育成しています。

12. かわまちてらす閖上

生まれ変わった閖上のまちを照らし、川辺の憩いのテラスとなるよう願いが込められた、閖上の新しい商業施設。平成31年4月にグランドオープンし、飲食店や海産物、スイーツのお店など25店舗が軒を連ねます。

13. 仙台空港民営化

仙台空港は平成28年7月に国管理空港として全国で初めて民営化されました。運営するのは仙台国際空港株式会社で、ターミナルビル、貨物、滑走路管理等の業務を一体経営しています。

14. いちご団地／にこにこベリー

東北有数のいちごの産地である亘理町は、津波によりいちご農地のほとんどが流され、塩害の被害がありましたが、国の復興交付金等により、総栽培面積約40㌶の「いちご団地」と呼ばれる栽培用の大型ハウスが平成25年9月に完成しました。令和元年には新品種「にこにこベリー」がデビューしました。

15. やまもと夢いちごの郷

平成31年2月にオープンした、「やまもと夢いちごの郷」は、山元町の特産品であるいちごやりんご、新鮮な魚介類、加工品等を販売する、町の魅力が詰まった直売所です。令和3年1月にはフードコートもオープンし、郷土料理や地場産品を使った料理などバラエティに富んだ食事が楽しめる山元町の新たなランドマークです。

情報発信の取組１ ●広報紙

被災地以外からは、なかなか知ることができない復興の「いま」を知ってほしいという想いから、
宮城県は2016年5月から2021年3月まで「震災復興発信プロジェクトNOW IS.」を展開してきました。

広報紙
NOW IS.

月1回、県内各地の復興の「いま」を発信してきました。

宮城にゆかりのある著名な方とともに被災地域を歩くインタビュー企画を巻頭特集として、県内の復興状況や、復興に向けた取組等を紹介する広報紙を毎月11日に発行してきました。公共施設を中心に無料で配布したほか、Webサイト（みやぎ復興情報ポータルサイト）にも掲載しました。

対談

地域の復興を盛り立てるキーパーソンと、巻頭を飾る著名人が、それぞれの想いを語りあう対談ページ。会話から垣間見える「当時」と「いま」の想いを特集しました。

防災

様々な防災や減災の取組・教訓等を未来に繋ぐため、最前線で奮闘する人々の声を紹介しています。生活に活かせるヒントが隠れています。

応援

復興業務をサポートするために、全国の自治体から宮城に派遣されている応援職員を紹介。宮城県から令和2年7月豪雨の被災地支援に派遣された職員のインタビューも。

Thank you from MIYAGI

宮城から、ありがとう。

全国各地、世界各国から寄せられた、たくさんの支援。
宮城の復興は、そんな数多の想いで成し遂げられています。

SUPPORT FILE No.1

From カナダ To 名取市

ゆりあげ港朝市・メイプル館

名取市閖上地区の沿岸部では、「よい品をより安く」をモットーに、約40年前から「ゆりあげ港朝市」が開催されています。東日本大震災では、朝市に出店していた事業者たちは津波で甚大な被害を受けました。彼らは被災しているにもかかわらず、品物をかき集め2週間後にはショッピングセンターの駐車場を借りて朝市を開催。人々を元気づけるとともに、離れ離れになった住民の再会の場にもなりました。

朝市が元の場所でグランドオープンしたのは2013年12月。再建の大きな力となったのが、「カナダ−東北復興プロジェクト」です。カナダ連邦政府、ブリティッシュ・コロンビア州政府、カナダウッド・グループが主体となり、カナダ産木材を使用した建物を寄贈し、店舗棟の一部と「メイプル館」が建設されました。

毎週日曜と祝日、朝6時から朝市は始まります。新鮮な海産物を中心に、野菜や果物、弁当や総菜、飲食店など約50店舗が軒を連ね、「おいしいよ！」「食べてみて！」と威勢のいい声が飛び交います。

「ゆりあげ港朝市」が末永く愛され続けること。それが支援していただいた多くの方々への感謝につながる―。店の人たちが生き生きと商売する姿と熱気から、その想いが伝わってきます。

SUPPORT FILE No.2

From シンガポール To 七ヶ浜町

七ヶ浜町立遠山保育所 らいおんパーク

七ヶ浜町は、東北の市町村で一番小さな港町。丘陵地にある遠山保育所は、東日本大震災の地震により大規模半壊してしまいました。

震災から3カ月後の6月、シンガポール赤十字社が被災地を支援する復興プロジェクトを探しているという情報を知り、支援を受けられないかと奔走したのが、当時七ヶ浜町地域福祉課長だった寺澤薫現町長でした。「小さな町を支援してもらえるか正直分かりませんでした。シンガポール大使に手紙を送ったり、視察に来ていただいたり、なんとか遠山保育所を再建したいという想いを伝えました」。保育所の再建をいち早く進めることで、住民が「これからもこの地域で安心して暮らしていける」という未来を想像することができ、復興への希望につながります。熱意が通じ、シンガポール赤十字社による遠山保育所再建の支援が決定し、2013年4月に開所しました。

遠山保育所は、広い園庭を中心に、保育室やホール、調理室などが口の字で囲むように配置され、みんなで手をつないでいる形がイメージされています。愛称はシンガポールの「マーライオン」にちなみ、「らいおんパーク」と名づけられました。地域から親しまれ、子どもたちの元気な声が響き続けること―。それが感謝への想いにつながっています。

SUPPORT FILE No.3

From 三菱商事復興支援財団など To 気仙沼市

サンフレッシュ小泉農園

「目指しているのは『持続可能な農業』それだけ」と話すのは、サンフレッシュ小泉農園の代表取締役、今野圭市さん。農園は、サーフスポットとして知られる気仙沼市小泉海岸のすぐそば。約４haの敷地に２haのトマト養液栽培のハウスが建つさまは圧巻です。約4万3千株のトマトの苗木を栽培し、年間約600tを出荷しています。

十数年前の小泉地区は小規模農家が点在し、今野さんの実家も含めてほとんどが兼業農家。大規模園芸で採算性を確保し、雇用創出や担い手育成により地域の農業を後世に引き継ぎたいと、18名の地権者に借地の相談をしましたが、相手にされませんでした。

そんな時に起きた東日本大震災。小泉地区一帯は津波で大きな被害を受けました。農業復興のため、再び地権者に借地の相談をした今野さん。「農具はもちろん、長靴すら流されて何もなくなり、もう農業はやらないから好きに使ってくれと同意してくれました」。

今野さんは2015年にサンフレッシュ小泉農園を設立し、三菱商事復興支援財団の出資金などを活用して施設を整備し、2016年9月にトマトの生産を開始。震災で農業の継続を断念した農家20人を含む34人の従業員を雇用しています。さらに、国際認証「グローバルGAP認証」を取得するなど、様々な取組を続けています。

Thank you from MIYAGI

宮城から、ありがとう。

全国各地、世界各国から寄せられた、たくさんの支援。
宮城の復興は、そんな数多の想いで成し遂げられています。

SUPPORT FILE No.4

From 日本ユニセフ協会　To 南三陸町

あさひ幼稚園

海・山・里の自然に恵まれた南三陸町。再建された南三陸町役場や南三陸病院などがある高台の志津川地区沼田は、町の中心となる地域。そこには町内唯一の幼稚園「あさひ幼稚園」があります。あさひ幼稚園の旧園舎はJR志津川駅のそばにあり、東日本大震災の際、園児と職員は全員無事でしたが、園舎は津波で全壊。

再建にあたり大きな力となったのは、日本ユニセフ協会。プロサッカー選手である長谷部誠さんが、著書の印税やチャリティーイベントの収益などを日本ユニセフ協会へ寄付し、再建に充てられました。

あさひ幼稚園の小島孝尋園長は、南三陸町内にある「大雄寺（だいゆうじ）」の住職です。震災の津波で寺の参道にある巨木の杉並木が被災し、塩害で枯れてしまう運命にありました。その杉を再建する園舎に使おうと提案をしたのは、建築を手がけた手塚建築研究所でした。「『あのまま朽ちて倒れるばかりかと思っていたので、園舎に使われてよかった』と地域の人たちも喜んでくれました」と小島園長は当時を振り返ります。

「300年以上にわたって寺を守ってきた杉が、姿を変え、命を巡り、今度は子どもたちを見守ってくれています」と穏やかな笑顔で話す小島園長。「この園舎でのびのびと学び、世界のために役立つ人に成長してもらえたら」。

SUPPORT FILE No.5

From カタール　To 女川町

MASKAR（マスカー）

女川町は古くから良港として栄え、サンマ漁では日本有数の水揚げ量を誇り、銀鮭や牡蠣、ホタテ、ほやなどの養殖業も盛んな水産業のまち。東日本大震災の津波で大きな被害を受け、瓦礫を撤去した港の更地にいち早く建設されたのが、「MASKAR」でした。

「『女川は必ず復興する』という強いメッセージを発信したかった」と話すのは、MASKARを運営する女川魚市場買受人協同組合の理事長、石森洋悦さんです。MASKARは、水揚げされた水産物や加工した水産加工品を保存するための冷凍冷蔵施設。秋のサンマ漁に間に合わせるため、2012年4月末に工事を着工し、10月15日に操業開始という驚異的なスピードで建設。「基幹産業である水産業の再開をアピールすることで、MASKARは復興のシンボルになりました」と石森さん。建設費用の20億円を支援してくれたのは、震災直後に「カタールフレンド基金」を設立した、世界有数の天然ガス産出国であるカタールでした。

「現在のMASKARは復興のシンボルとしての役割を終え、施設を活かすための様々な取組をしている段階。魚市場から冷凍冷蔵庫、加工場、小売店までエリア全体が高度な衛生基準を満たし、まち全体で高価値の商品を生み出しています。女川の商品が世界的なブランドとなり、活気あふれるまちにできたら」。

SUPPORT FILE No.6

From 図書館振興財団・日本ユニセフ協会・カナダ東北復興プロジェクト　To 名取市

名取市歴史民俗資料館

2020年5月31日に開館した「名取市歴史民俗資料館」は、様々な団体の支援により建設されました。

震災前、この場所には名取市図書館がありました。築50年を超える建物は、震災による地震で解体することに。移動図書館車や離れの書庫などを活用しながら続けていた図書館は、2011年11月、図書館振興財団の支援でプレハブの建物が建設され、さらに2012年1月には日本ユニセフ協会の支援で「どんぐり子ども図書室」、同年12月にカナダ東北復興プロジェクトの支援で、「どんぐり・アンみんなの図書室」が完成。その後、名取駅前に図書館を新設することになり、それらの建物は、感謝の想いを受け継ぐため「名取市歴史民俗資料館」として新たに生まれ変わりました。

2つの図書室は展示室に、プレハブの建物は、体験学習や各種講座、資料館の展示ガイドなどを行うボランティアの活動拠点施設として活用されています。「これまで名取市の歴史・文化を紹介する市の施設はありませんでした。歴史講座や企画展の展示解説などの企画は予約で埋まっており、興味を持っていただいています。今後は『資料館はいつも何か企画をやっているよね』と気軽に来ていただけるよう、魅力ある企画を打ち出していきたいですね」と館長の鴇崎（ときざき）さんは話してくれました。

SUPPORT FILE No.7

From 台湾　To 南三陸町

南三陸病院

南三陸町内唯一の病院である「南三陸病院」。前身の公立志津川病院は、東日本大震災の津波で被災。再建にあたり大きな力となったのは、台湾から寄せられた海外救援金でした。台湾赤十字組織から建築費用の約4割にあたる22億2,000万円もの支援を受け、2015年12月に診療開始となりました。

診療科は内科や外科、小児科など10科で、病床は90床。病院施設に加え、地域の保健や福祉といった行政サービス施設「総合ケアセンター」も併設。両施設の間には、「みなさん通り」というホールがあり、緊急時にはトリアージをする場所としても使えるようになっています。

「このホールは緊急時、多くの人が訪れて椅子に座りきれない場合でも、底冷えしないよう床暖房を設置しています。震災時はとても寒かったですから…」と事務次長の後藤正博さんは言います。緊急時にベッドとして使えるソファーをロビーに配置したり、柱の所々には酸素取り込み口を設置したり、震災の教訓を活かしています。事務長の佐藤和則さんは「本病院の来院者数は1日平均200人で、病床稼働率は90%です。町の入院施設はここしかありませんので、地域医療の拠点としてこれからも頑張りたい」と話してくれました。

SUPPORT FILE No.8

From 末日聖徒イエス・キリスト教会　To 亘理町

製氷・冷蔵施設

亘理町の荒浜にある宮城県漁業協同組合仙南支所（亘理）では、底びき網漁業や刺網漁業で漁獲されたヒラメやカレイ、サケなど、様々な魚介類が水揚げされているほか、海苔養殖も行われています。東日本大震災の津波で、荒浜漁港に係留していた漁船84艘のうち82艘が流され、うち56艘が廃船に。魚市場、製氷・冷蔵施設なども被災しましたが、震災から約1カ月後の4月から応急活動をスタート。6月下旬に水揚げが再開されました。「漁を再開したものの、夏場に向けて氷と冷蔵庫がなく、どうしようかと思っていたら、製氷・冷蔵施設を寄贈いただいたので助かりました」と話すのは、同支所の支所長、佐伯さんです。

製氷・冷蔵施設を寄贈したのは、末日聖徒イエス・キリスト教会です。「7月に施設が完成し、おかげで鮮度の良い魚を市場に供給できました」。その後、風評被害や漁獲規制などの影響を受けましたが、漁獲量は2016年に震災前の2.8倍になりました。

「温暖化の影響なのか漁獲量は2016年のピーク時の半分ほどに。サケやヒラメの採卵・稚魚の放流など、資源の管理を行いながら、漁場を永続的に使っていくことが重要です。また、6次産業化にも力を入れています。様々な取組をすることで、亘理の水産業を盛り上げたいですね」。

SUPPORT FILE No.9

From セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン／サントリーホールディングス　To 石巻市

石巻市子どもセンター らいつ

「石巻市子どもセンターらいつ(以下らいつ)」は、利用者である子どもたちの想いが具現化された児童館です。設立の背景には、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下SCJ)とサントリーホールディングス(以下サントリー)の支援がありました。

SCJは、2011年7月に「まちのために何かしたい」と願う小・中・高校生たちに呼びかけ、「石巻市子どもまちづくりクラブ」を発足。子どもたちは「夢のまちプラン」を描き、「石巻の活性化のために中高生が中心となってつくり、運営していく施設」「みんなが過ごしやすく、子どもの想いを世間の人たちに伝えられる場所」をコンセプトとした児童館の設立を企画し、石巻市に提案。子どもたちは行政や地域住民と意見交換を重ね、施設のデザインにも携わりました。建設費用は、サントリーが支援し、2013年12月にらいつが完成。石巻市に寄贈され、翌年1月にオープンしました。

らいつでは、子どもたちが施設運営に参加し、施設のルールを決めたり、イベントを開催したり、まちあるきマップを作成するなど、子どもが主体となって様々な活動に取り組んでいます。「子どもの主体性を大切にしながら、これからも子どもの社会参画を実現する児童館として邁進していきたいです」と館長の荒木さんは話してくれました。

情報発信の取組 2 ●WEB

宮城県の「いま」を発信する「みやぎ復興情報ポータルサイト」。
NOW IS.取材班によるインタビューや著名人など、さまざまな書き手による、多角的な視点で情報を発信してきました。

WEBサイト

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」では
復興に関するお知らせや復興の進捗状況、
復興に向けた取組など様々な情報を発信しています。

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!
https://www.fukkomiyagi.jp

ブログ・復興取材レポート

● いわたかれんの復興フォト

これまでの被災地訪問は100回を超える岩田華怜さん。「写真」に想いを込めて、被災地の状況を発信しています。

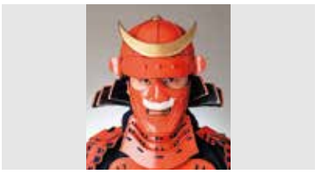
● 宮城のおいしいをお取り寄せ

東京を拠点に活躍する黒羽 麻璃央さん。宮城の味をお取り寄せして、レポートします。

● SAMURAI JAPAN PROJECT

宮城を世界へ

日本の魅力を世界に発信するインスタグラマー。歩いて見つけた宮城の魅力を紹介します。



● 宮城発!元気と食の最新情報

震災からの復活を遂げた企業の元気なトピックや、注目のグルメを紹介します。

● カモキチ復興レポート

カモキチが広報紙「NOW IS.」の取材の裏側などをレポート!

● 復興インタビュー

宮城県内で復興に向けた取り組みを行う方々の声を聞きました。

● 語り部が本当に語りたいこと

震災の記憶や得られた教訓を語り継ぐ「語り部」さんの想いを取材しました。

● NOW IS. 防災

防災のヒントや防災知識の最前線をお伝えします。

● 震災遺構

震災の記憶や教訓を後世に伝える震災遺構を巡り、紹介しています。

情報発信の取組 3 ●その他

全国の方々からの支援と励ましに支えられながら、復興の歩みを進めている宮城県。
今もなお復興に向けて取り組んでいる人々の姿を伝えるためのポスターやパネルを制作してきました。

宮城の「いま」を伝える ポスター・パネル

復興にかける想いや決意を全国に届けます。

復興の過程で生まれた新たな“価値”や“教訓”を未来に活きる情報として全国に発信するため、復興に向けた取組を行う方々をポスターにして全国の公共施設等に掲出しているほか、パネルにしたものをイベント等で展示しています。

※パネルの貸出しも随時受け付けています。

イベントでの展示の様子。

ポスターは、宮城県内はもちろん、全国の公共施設や公共交通機関などに掲出しています。震災から立ち上がる人々の姿と想いをご覧ください。

10枚で構成されるパネルには、被災直後と現在の様子を写真で見比べる特集や、復興の様子をデータで紹介する特集、地元の方々の想いを伝える特集などがあります。

スペシャル動画

東日本大震災から10年という節目に、宮城県の「いま」と、私たちの「想い」を伝えるため、動画を制作しました。日本中、そして世界中の方々へ、10年分の「ありがとう」を込めて・・・。ぜひご覧下さい。

SNS

SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地の「いま」を発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

震災の記憶の

風化防止・伝承施設

東日本大震災から10年がたち、震災の記憶の風化が進む中、
宮城県内では多くの伝承施設や復興モニュメント、
震災遺構の整備が進められています。

※この他に、民間の施設も整備されています。

県内の主な伝承施設等一覧

1. リアス・アーク美術館
   「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示
2. 唐桑半島ビジターセンター・津波体験館
3. 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館（気仙沼向洋高校旧校舎等）
4. 南三陸町震災復興祈念公園
5. 石巻市震災遺構大川小学校〈令和3年3月整備完了予定〉
6. 石巻市震災遺構門脇小学校〈令和3年度整備完了予定〉
7. 石巻南浜津波復興祈念公園
8. 東日本大震災遺構　旧女川交番
9. 東松島市震災復興伝承館／旧野蒜駅プラットホーム（震災遺構）
10. 松島町石田沢防災センター
11. 塩竈市津波防災センター
12. せんだい3.11メモリアル交流館
13. 震災遺構　仙台市立荒浜小学校
14. 名取市震災復興伝承館
15. 名取市震災メモリアル公園
16. 岩沼市千年希望の丘交流センター
17. 山元町防災拠点・山下地域交流センター（1階 防災情報コーナー）
18. 山元町震災遺構中浜小学校

1 リアス・アーク美術館「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示

提供：リアス・アーク美術館

本常設展では「震災被害を後世へ伝え、通じて地域文化の再生に寄与する」という新たな使命のもと、写真や被災物とともに、三陸地方における過去の津波災害の資料を展示し、津波災害に関する知見を深め、津波と地域文化の関係、海とともに生きる地域の未来を考える場としています。

所在地　気仙沼市赤岩牧沢138-5　開館時間　9:30～17:00
休館日　月曜、火曜、祝日の翌日（土日を除く）
問合せ先　0226-24-1611

2 唐桑半島ビジターセンター・津波体験館

提供：唐桑町観光協会

ビジターセンターに併設されている津波体験館は、「津波」をテーマに実際に即してストーリー化し、映像・音・振動・風で津波を体全体で擬似体験ができ、過去の津波による悲劇を風化させず語り継ぐことや、これまでの歴史の経験から、災害時にどのように行動したらいいのか等について防災意識を喚起する施設です。

所在地　気仙沼市唐桑町崎浜4-3　開館時間　8:30～16:30
休館日　火曜（火曜が祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土日を除く）
問合せ先　0226-32-3029（唐桑町観光協会）

3 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館（気仙沼向洋高校旧校舎等）

提供：気仙沼市

震災の記録と教訓を伝承するため、“目に見える証”として津波で4階まで被災した気仙沼向洋高校旧校舎を「震災遺構」として保存し、震災時の津波映像や被災直後の写真展示を備える「震災伝承館」と併せて公開しています。

所在地　気仙沼市波路上瀬向9-1
開館時間　9:30～17:00（4月～9月）、9:30～16:00（10月～3月）
休館日　月曜（月曜が祝日の場合は翌日）／
祝日の翌日（土日、GW期間を除く）／年末年始（12月29日～1月4日）
問合せ先　0226-28-9671

4 南三陸町震災復興祈念公園

「南三陸町旧防災対策庁舎」をはじめ、「祈りの丘」や「復興祈念のテラス」、「語り継ぎの広場」など、追悼・継承・感謝そして未来を想像する協働の場として公開。公園とさんさん商店街を結ぶ「中橋」は、復興の象徴としてデザインされています。

所在地　本吉郡南三陸町志津川塩入地内
問合せ先　0226-46-1382（南三陸町建設課）

5 石巻市震災遺構大川小学校〈令和3年3月整備完了予定〉

提供：石巻市

東日本大震災により亡くなられた方々の慰霊・追悼の場とするとともに、震災をめぐる事象と教訓を後世に伝え継ぐ施設として整備が進められています。校舎やプール、野外ステージなどを震災遺構として手を加えずに、現状のまま残していきます。

所在地　石巻市釜谷字韮島94
問合せ先　0225-95-1111（石巻市復興政策部震災伝承推進室）

6 石巻市震災遺構門脇小学校〈令和3年度整備完了予定〉

提供：石巻市

隣接する石巻南浜津波復興祈念公園と日和山との連続性を保った「震災伝承エリア」の主要施設として整備が進められています。津波被害の痕跡に加え、東北地方の多くの被災地で発生した津波火災の痕跡を唯一残した小学校校舎を保存しています。

所在地　石巻市門脇町四丁目103-2
問合せ先　0225-95-1111（石巻市復興政策部震災伝承推進室）

7 石巻南浜津波復興祈念公園

東日本大震災により亡くなられた方々の追悼、震災の記憶と教訓の伝承等を目的に整備され、国営追悼・記念施設や避難築山などが配置されるほか、公園内の「みやぎ東日本大震災津波伝承館」では、被災の状況や津波から命を守るための教訓等をパネルや映像を用いて伝えています。

所在地 石巻市南浜地内
問合せ先 公園について：022-211-3138（宮城県都市計画課）
伝承館の展示について：022-211-2443（宮城県震災復興推進課）

8 東日本大震災遺構　旧女川交番

提供：女川町

津波で横倒しになった旧交番。鉄筋コンクリートの建造物が津波で倒壊・転倒した例は世界的に見ても希少です。見学用スロープの壁面には復興までの道のりを伝えるパネルを展示しています。

所在地 女川町海岸通り1　問合せ先 0225-54-3131（女川町役場）

9 東松島市震災復興伝承館／旧野蒜駅プラットホーム（震災遺構）

提供：東松島市

津波の生々しい爪痕を残すJR仙石線旧野蒜駅プラットホームを震災遺構として保存。駅舎は、震災復興伝承館として整備され、震災時の様子や復興の歩み、全国からの派遣職員の名板などを展示しています。

所在地 東松島市野蒜字北余景56-36
開館時間 9:00～17:00　休館日 毎月第3水曜
問合せ先 0225-86-2985

10 松島町石田沢防災センター

提供：松島町

石田沢防災センター内に設置した展示コーナーでは、震災発生時の初期対応から復旧・復興までの歩みや道路、河川、港湾の各業務の取組状況などをパネルや映像等で紹介しています。

所在地 松島町松島字石田沢12-2　開館時間 9:00～17:00
休館日 水曜、12月29日～1月3日
問合せ先 022-354-5782（松島町総務課環境防災班）

11 塩竈市津波防災センター

提供：塩竈市

発災後の1週間に焦点をあて、そのとき何が起き、人々が何を求め、状況はどのように変化していったのかを中心に記録、展示しています。

所在地 塩竈市港町一丁目4番1号
開館時間 9:00～17:00
休館日 月曜（月曜が祝日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）
問合せ先 022-355-6491（塩竈市市民安全課防災係）

12 せんだい3.11メモリアル交流館

震災の記憶と経験を後世に伝えるための拠点。1階には東部沿岸地域への案内所となる交流スペース、2階には震災を伝える展示室と市民活動の場となるスタジオを備えています。

所在地 仙台市若林区荒井字沓形85-4（地下鉄東西線荒井駅舎内）
開館時間 10:00～17:00
休館日 月曜（月曜が祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土日、祝日を除く）、年末年始、臨時休館日
問合せ先 022-390-9022

13 震災遺構　仙台市立荒浜小学校

提供：仙台市

児童や教職員、地域住民ら320人が避難し、2階まで津波が押し寄せた小学校。被災した校舎のありのままの姿と被災直後の写真展示等により、津波の威力や脅威を後世に伝えていきます。

所在地 仙台市若林区荒浜字新堀端32-1
開館時間 9:30～16:00（9月から6月まで）、9:30～17:00（7月から8月まで）
休館日 月曜および第4木曜（祝日を除く）、年末年始、臨時休館日
問合せ先 022-355-8517（震災遺構仙台市立荒浜小学校管理事務所）

14 名取市震災復興伝承館

提供：名取市

東日本大震災の被害や教訓を後世に伝える展示や映像のほか、震災以前の閖上の街を再現したジオラマや、復興のあゆみ、それに観光情報など、昔と今そして未来へ向かう名取市の情報を発信しています。

所在地 名取市閖上2丁目66番地
開館時間 4月～11月 9:30～16：30、12月～3月 10：00～16:00
休館日 火曜（火曜が祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）
問合せ先 022-393-6520

15 名取市震災メモリアル公園

日和山ゾーン、祈りのゾーン、海を望む丘ゾーンなど、5つのゾーンで構成されている、震災により亡くなられた方々を悼む復興祈念公園です。

所在地 名取市閖上5丁目142番地
問合せ先 022-384-2111（名取市建設部閖上・北釜整備課）

16 岩沼市千年希望の丘交流センター

千年希望の丘は東日本大震災メモリアルパークとして既存の丘2基を含め14基と、丘をつなぐ園路（緑の堤防）が整備されています。公園内には交流センターがあり、大津波の記憶や教訓、復興の様子等を写真パネルや映像等で伝えています。

所在地 岩沼市下野郷字浜177　開館時間 9:00～17:00
休館日 火曜（火曜が祝日の場合は翌日）、12月26日～1月7日
問合せ先 0223-23-8577

17 山元町防災拠点・山下地域交流センター（1階 防災情報コーナー）

提供：山元町

震災による悲劇が繰り返されることがないよう、本センターの1階に「防災情報コーナー」を設置し、被災集落の震災時の写真や映像、浸水状況のジオラマ、防災・減災に関する資料等を展示し、津波災害の伝承、防災教育への活用及び防災意識の高揚を図る施設です。

所在地 亘理郡山元町つばめの杜一丁目８番地
開館時間 9:00～21:30　休館日 12月28日～1月4日
問合せ先 0223-37-5592

18 山元町震災遺構中浜小学校

提供：山元町

大津波から90人の命を守り抜いた県南唯一の震災遺構です。被災した校舎に立ち入ることができ、津波の痕跡や当時を振り返る映像、子どもたちが一夜を明かした屋根裏倉庫など、震災被害と教訓を強く訴えるスポットで構成されています。

所在地 山元町坂元字久根22-2
開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜（月曜が祝日の場合は翌日）、12月28日～1月4日
問合せ先 0223-23-1171（震災遺構中浜小学校管理棟）